

① ISO 要求項目の構造 (MSS 共通構造化)

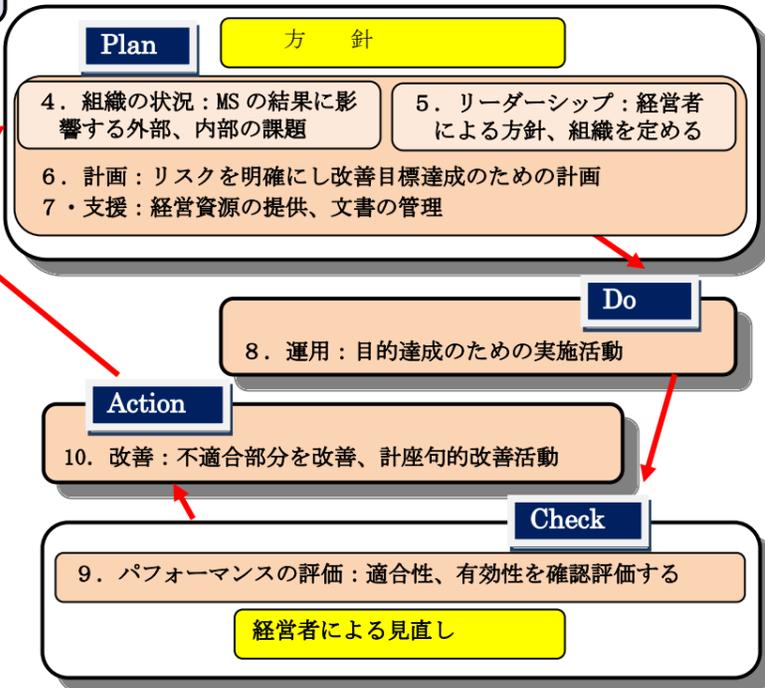
統合 ISO とは、事業プロセスと ISO を一体化させる
 ・ ISO9001：会社をよくする (付加価値確保)
 ・ ISO14001：地域に迷惑かけない (環境負荷低減)

統合マニュアル (教科書) の使い方

- ・ 経営者の想い (経営理念) を実現するマネジメントを教える教科書とする
- ・ 社員と共に目標を定め、目標達成のための PDCA を回す改善の手順
- ・ 組織と自分の関係を認識し、自分は何かができるか? 役割を認識する

利害関係者：消費者 (顧客)、従業員、株主、債権者、仕入先、得意先、地域社会、行政など

信頼性、透明性、公平性

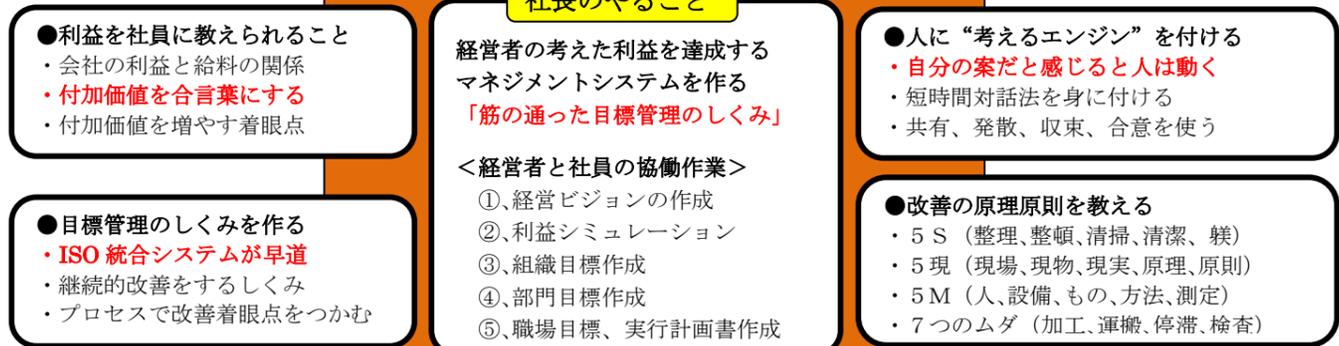


ISO マネジメントシステムの評価項目

- 組織の課題解決に役立っているか
- ISO を組織全体で取り組んでいるか
- 一人ひとりの能力が活用されているか
- 改善が決算書に反映しているか
- 管理者がマネジメントを教えているか
- 有効性の内部監査になっているか

③ ISO だけでは会社はよくなる。ISO は日常業務と再定義する。

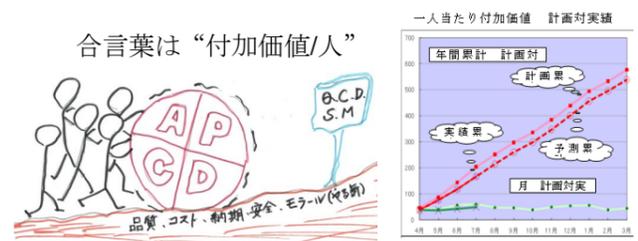
～利益を確保するマネジメントシステムの作り方～



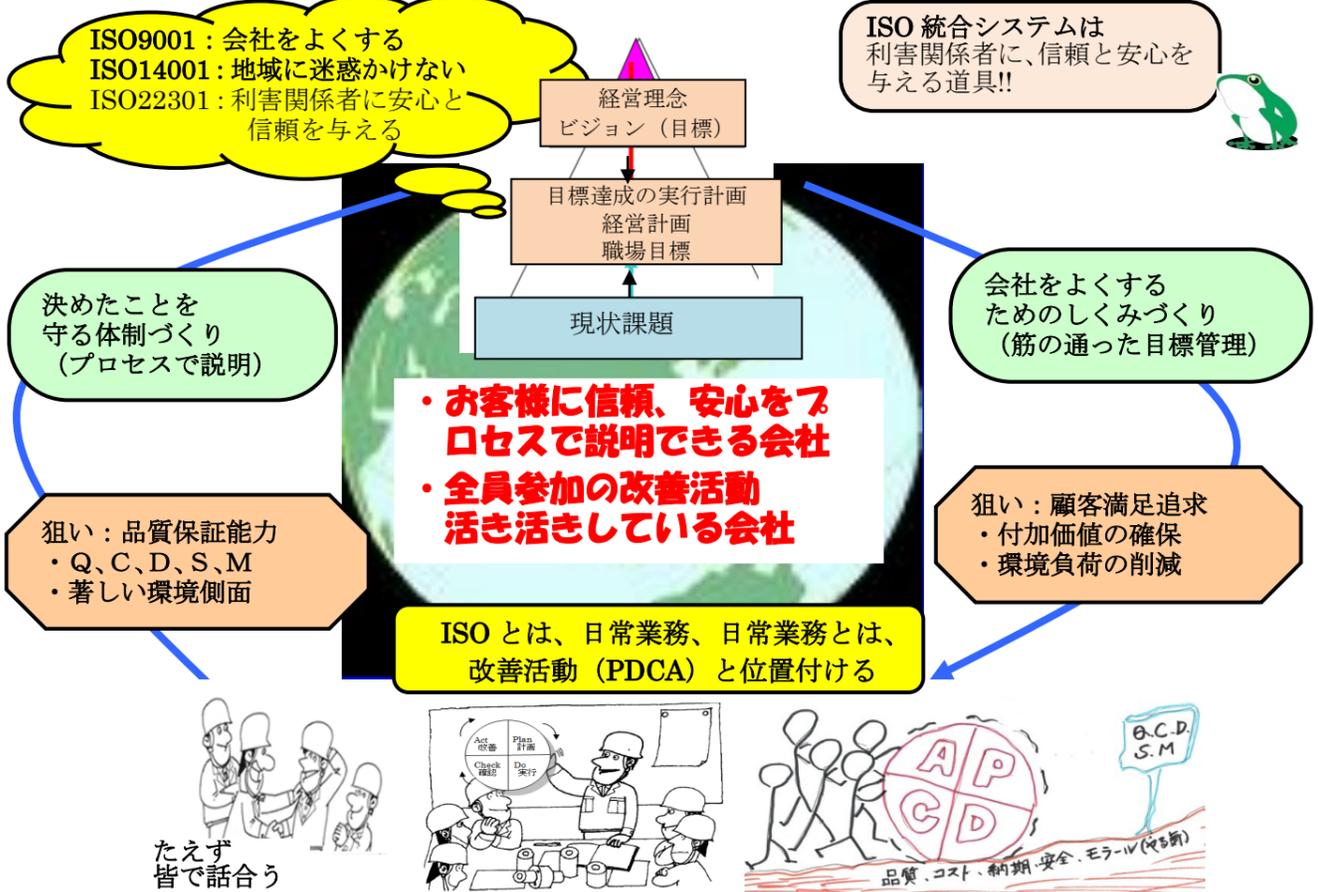
組織力：自分で考える能力を引き出す
 組織風土：チームで解決する能力を引き出す

ISO 2015 年改訂のポイント

- 1) MS 規格構造の共通化で事業プロセスと統合する
経営者は、各種 MS (ISO9001、ISO14001、ISO22301、ISO27001、OHSAS18001 など) を組織の事業プロセスに統合する。
- 2) 組織の状況を理解し課題を解決するしくみ
経営者は、企業内外の課題及び利害関係者のニーズと期待を特定し、MS をどのように使うか決める。
- 3) リスクに基づく予防処置 (改善) をプロセスで説明
目標 (意図した期待される結果) の達成 (パフォーマンス向上重視) をプロセスで説明できるしくみ。



② 「ISO 統合システム」は、経営者の想い (経営計画) 達成の道具



④ 統合マニュアルは、マネジメント (日常業務) を教えるテキストとして使う

